

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	21	学校名	大垣北高等学校
------	----	-----	---------

学校教育目標 (教育方針)	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、「誠実・友愛・努力」を本校の生活信条とし、その具現に努める。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養をもち、グローバルリーダーとして国際社会の平和と発展に貢献できる生徒 豊かなコミュニケーション能力と高い倫理観をもち、多様な人々と協働することができる生徒 主体性と積極性をもち、自らが考えて地域や国の未来を切り拓いていくことができる生徒 	
	生徒をどう育てるか【CP】	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視野と幅広い教養を育み、持続可能な社会の実現に貢献できる資質・能力を育成する探究活動の推進 基本的な知識の確実な習得とともに、主体的、能動的に学び合い、論理的な思考力や考察力を高める授業の実施 智・徳・体の調和のとれた、自主的で、たくましく豊かな人間性を育成する行事や生徒会活動、課外活動の実施 	
	どんな生徒を待っているか【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 地域や世界の様々な事象に関心をもち、自ら課題を発見し、その解決に向けて誠実に探究していける生徒 授業はもちろん、行事や部活動などどの方面にも積極的に取り組むとともに、友愛のこころをもって協働的に取り組める生徒 知的好奇心が旺盛で、主体的な学びを通して、幅広い教養を身に付けるよう不断の努力ができる生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習態度の育成と教科横断的・探究的な深い学びへの導き（教務・探究） 卒業後の生き方と社会的役割を意識したキャリア教育の充実と主体的な進路意識の向上（進路支援・図書情報館） 自らの価値や存在意義を肯定できる感情の醸成と自他を互いに尊重し助け合う態度の涵養（生活充実・教育相談・学年） 学校行事等、個々の生徒の協力による自主的積極的な取組における、人とつながり関わる力の向上のための支援（生徒） 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	生徒が自ら課題を発見し克服するために、意欲を生み出す授業を展開する。 ICTを活用しデータサイエンス的なアプローチによって、深い学びを導く探究活動を展開する。 デジタル分野の人材育成に耐えうる環境設備を整備し、対話的・協働的な学びの充実を図る。	
	進路指導	生徒の視野を広げ、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高められるよう、個々の取組を適切かつ計画的に支援する。 多方面で活躍する卒業生の活躍に触れるとともに、効果的な説明会や進路面談の場を設け、学習と将来の進路目標をつなぐキャリア教育を充実させる。	
	生徒指導	一人一人の「こころのサイン」や身体的な変化を見逃すことなく、個に応じた支援を積極的に行う。 不登校傾向の生徒や困り感をもった生徒に対し、早期発見に努め、初期段階から組織的対応を行い、本人及び保護者に寄り添った継続的な支援に努める。	
	特別活動	北高祭、清流の国ぎふ総文、創立130周年記念事業など、多様な他者と協働し、合意形成を図ったり意思決定したりする体験を通じ、経験値を高める。 部活動ガイドラインに沿って、より効果的で持続可能な部活動を目指し、より自立的で自信につながる活動とする。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	・全職員による重点目標の共有と確実な実践	8	施策Ⅱ-8	・生徒による授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 4月の職員会議で重点目標を共有し、授業実践をした上で夏・冬の2回の授業アンケートの結果にもとづき授業改善に努めた。 各教科で計画的に研究授業を行い研鑽に努めた。 各分野の専門的な講師を招き、テーマを明確にした上で、より高度な講演を実施した。 今年度の重点としたデータサイエンスに関する基礎講座を開き、情報とタイアップした。 コンピュータ室を大幅に改修し、探究に特化した空間（DXラボ）を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回、ICTを利用した授業アンケートを実施することで自己分析しやすくなった。 ▲教科の枠を越えた研究授業の実践の浸透が課題である。 ○講義の内容を生かし、探究プロセスにおいて、データサイエンス分野が増えた。 ○学会や研究会に積極的に参加し、上位入賞を果たした。来年度も今年度以上の参加を目指す。 ○モーションキャプチャーや動画編集といった情報の授業やコンピュータ部の活動などより一層の探究活動の充実を図る。 	B
	・授業アンケートの結果を活かした授業改善	9	施策Ⅱ-9	・生徒からのアンケート			
	・外部講師による講話のフィードバックを活かした探究的な学びの深化	11	施策Ⅱ-11	・学会、研究会等への参加率			
	・データサイエンス分野や発表機会の充実等を柱とする探究活動の深化	9	施策Ⅱ-9	・授業時の活用促進アンケート			
進路指導	・大北先輩講座等、卒業生を中心とする外部講師からの講話を通じたキャリア教育の充実	11	施策Ⅱ-11	・事後アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 大北先輩講座や卒業生によるオオキタサポートなどを通してキャリアに関する知見を深めた。 東大見学会では、同窓会の協力を仰ぎ、大学進学のみならず社会で活躍するイメージを広げた。 学部学科説明会・大学説明会を実施し、希望する学問に関する最新情報を提供した。 進学講演会・キャリア講演会などで生徒のモチベーションを向上させた。 teamsを通じて各学年の生徒に迅速に情報共有できたが、保護者には十分ではなかった。 図書館だよりの発行やSD探究・LHRでの図書館の利用を推進し、読書への興味喚起を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> △土曜日のオオキタサポートへの参加率が低い。学校で学習する生徒を増やす。 ○十分な成果を挙げている一方で、卒業生への負担の軽減が課題である。 ▲大学説明会の参加率向上を図る。 ○保護者にむけても学年育友会で情報共有をしており、概ね良好である。 ▲保護者への情報提供の方法を検討する。 ▲学校評価アンケートの結果が芳しくない。HPなどを活用した広報活動を充実させる。 	B
	・新課程入試に対応した指導（進学説明会や個別懇談）の充実	13	施策Ⅱ-13	・生徒及び保護者等を対象とするアンケート			
	・図書館やネットを活用した進路探究活動の推進	8	施策Ⅱ-8	・生徒及び保護者等を対象とするアンケート			
生徒指導	・スクールカウンセラー・スクール相談員・スクールソーシャルワーカーとの連携強化	3	施策Ⅰ-3	<ul style="list-style-type: none"> SC等活用事業報告書 心のアンケート 生活実態調査 生徒及び保護者等を対象とするアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果から概ね安心・安全な環境づくりができています。（生徒93.6%、保護者92.0%） 生徒一人一人に寄り添い、心理的安全性が保たれた学級経営に取り組むことで、互いを尊重し、安全・安心した学校生活を概ね送れている。 生徒に対する「SOSの出し方教室」や職員研修「SOSの聴き方・受け止め方」を実施した。 学年会で周知し、情報共有・生徒への声掛けを行った。 通級専任教員が配置されており、困り感をもった生徒と保護者に放課後セミナー（通級による指導）を実施した。 県下各ブロックの代表として生徒が県警本部開催のヘルメット着用に関する討論会に参加した。 認知したいじめのうち、一定期間が経過していないものを除き、すべて解消している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心のアンケートや教育相談期間だけでなく、必要に応じてケース会議を開き、教育相談や養護教諭、SCやS相と連携し、個に応じた支援を行うことができた。 ○SCやS相が学校における相談窓口の1つであることを周知した。 ○担任だけでなく組織として対応することができた。 ▲自己肯定感・協調性・忍耐力・社会的スキルなどの非認知能力（SEL:社会性と情動の学習）のさらなる向上を図る。 ▲多様な特性に幅広く対応し、自己理解につなげるとともに、職員への啓発を図る。 ○生徒会が自主的に意識調査を実施し、ヘルメット着用の推進に貢献した。 ▲生徒指導上の深刻な課題に直面した時、また予想される時に備え、校内の組織的対応とともに、関係機関等と連携・協働する準備を進める必要がある。 	A
	・早期段階でのケース会議開催と支援方針の決定						
	・全職員による日常的な観察と声掛けの充実	7	施策Ⅰ-7				
	・警察等関係機関との連携強化	1	施策Ⅰ-1				
	・心のアンケートや迷惑調査における生徒のSOSの把握、迅速な情報共有と行動連携						
特別活動	・生徒会からの適切な情報発信による学校行事の円滑な遂行	1	施策Ⅰ-1	・行事後に行うアンケート	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭等で生徒が自主的に活動し、充実した発表をすることができた。バレーボール大会やスポーツ大会も皆積極的に取り組んだ。 ぎふ総文で文化系部員が部門要員や補助員で活躍し、130周年記念事業で特別講演などで司会やパネラーを生徒がしっかりと務めた。 積極的に部活動に取り組む生徒が多い。 海外研修の再開をした。行先やプログラム内容を見直し、現代社会に求められる力を身に付けることができる内容とした。（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○執行部を中心に、生徒全体が行事に自主的積極的に取り組むことができた。 ○全国大会や記念事業という希な機会に、協力し合って積極的に参加し、成就感と充実感を持つという体験ができた。 ▲適切な部活動数の検討が必要。 ○3月に実施予定。同世代との国際交流を通じて、課題解決力を養うプログラムを体験する。 	A
	・清流の国ぎふ総文や創立130周年記念事業への積極的な関与の促進	1	施策Ⅰ-1	・参加者事後アンケート			
	・適切で効率的な部活動の実施	25	施策Ⅳ-25	・部活動アンケート			
	・海外研修の再開	11	施策Ⅱ-11	・部活動実施報告 ・生徒からのアンケート			

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> （学習指導）教科を越えた研究授業の交流を年間計画に組み込んで実践していく。 （学習指導）データサイエンスに重きを置く大学との連携を進め、専門的な講義、研究を加速させる。 （学習指導）成果発表の機会を校外、校内で充実させ、フィードバックを得る機会を増やす。 （進路指導）メール配信システムなどを活用し、保護者への進路情報の提供を充実させる。 （進路指導）本校主催の大学説明会の広報を行い、2年生だけではなく、1・3年生の参加を増やす。 （進路指導）生徒だけでなく保護者に向けて図書館利用の周知を図り、進路情報の提供を進める。 （進路指導）進路支援、探究推進部と連携して図書館の有効的な利用ができるよう体制を整える。 （生徒指導）校内組織に向け各対応マニュアルの周知の徹底を図る。 （生徒指導）生活充実部・教育相談・養護教諭の間で定例会議を実施するとともに、必要に応じて学年会議に加わり、生徒の情報共有を図る。 （生徒指導）生徒の特性にあった支援ができるよう体制を整える。 （特別活動）関係各方面で、閉鎖できる部活動、合併できる部活動を検討する。 	<p>実施日：令和7年1月17日</p> <p>学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の方法について、自身を過小評価している傾向がある。 自信をもって評価し自身の励みとしてほしい。 評価をするための客観的な資料の提示、評価の視点の明確化、数値による評価を推進してほしい。 ⇒（学校として）年度当初に立てる目標を「はかれる」ものにすることを検討したい。 全体的に一生懸命に取り組んでいる。活躍している生徒の進捗状況やその後について追跡調査をしてほしい。 素晴らしい活動には支援したい。 本校は、「たった一人の生徒も置いていかない指導」に心掛けている。 生徒一人一人、感じ方・ものごとの捉え方・考え方が違うが、それぞれに適切に対応している。 優秀な生徒が周りに多いせいか、生徒の自己肯定感が低かったり、内向きだったりする傾向がある。 無限の可能性を伸ばすため、日々の学習や学校行事を通して、様々な経験を積み重ねてほしい。 総合的な探究の時間の取組は、経験を積み自信をつけるよい機会である。 	<p>実施日：令和7年1月31日</p>
--	---	----------------------